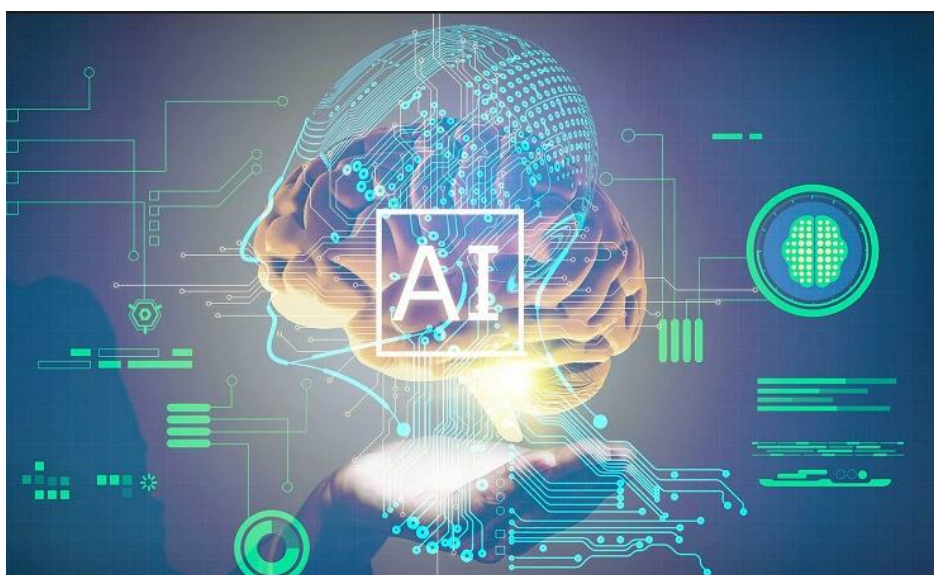


AI 大腸内視鏡、大腸ポリープを 瞬時に鑑別

情報システム大手のサイバネットシステムは、内視鏡画像から AI を用いてわずか 0.4 秒で腫瘍かどうかを判断する大腸内視鏡診断支援ソフトウェア「EndoBRAIN」を開発、医療機器として国内で承認されました。2019 年内にも、オリンパスから発売する予定です。



EndoBRAIN は、オリンパスの超拡大内視鏡「Endocyto（エンドサイト）」を使って520倍で撮影した大腸内視鏡画像をAIで解析し、腫瘍である可能性をわずか0.4秒で数値として出力するソフトウェア。大腸ポリープが腫瘍かどうかの判断について、病理診断に対する正診率が98%、感度は97%で、「専門医に匹敵する精度」を実現しました。今後、超拡大内視鏡 Endocyto を一般にどれだけ普及できるかが焦点となります。

